

掘りday はちのへ

ー八戸市埋蔵文化財ニュース第12号ー

(合掌土偶国宝指定記念号)

祝^{かざはり}国宝指定！ー^{いち い せ き}風張1^{がっしょう ど ぐ う}遺跡出土「合掌土偶」ー



風張1遺跡出土 合掌土偶

高さ 19.8cm 幅 14.2cm

奥行き 15.2cm

平成21年3月19日、風張1遺跡から出土した重要文化財のうち、「合掌土偶」1点が国宝に指定されることとなりました。

風張1遺跡の出土品は、昭和63年から平成4年までの発掘調査で出土したもので、縄文時代後期後半の土偶・土器・石器など666点が平成9年に国の重要文化財に指定されています。

「合掌土偶」国宝指定の理由

- ① ^{ざそうがた}座像形で^{がっしょう}合掌した形の^{かんぞんひん}完存品は本例のみである。
- ② 発掘調査で発見されたものであり、出土状態が明らかなで学術的価値が高い。
- ③ 縄文時代のアスファルト修復・全身の赤色塗彩・合掌形・完存品などの特徴は、縄文時代の習俗を考えるうえで極めて高い価値を有する。

(文化庁発表資料より抜粋)





合掌土偶が出土した風張 1 遺跡

土偶が出土した風張 1 遺跡は八戸市庁から南方へ 4.3 km、新井田川^{にいだがわ}の右岸に位置し、標高 20 ～ 30 m の舌状台地に立地しています。遺跡の規模は東西約 470 m、南北約 250 m、総面積は 75,000 m² です。縄文時代晩期で有名な是川遺跡^{これかわいせき}は対岸に所在します。

遺跡は、八戸市教育委員会が昭和 63 年～平成 4 年 (1988 ～ 92) まで、道路整備や施設建設などの原因による、5 度の発掘調査が行われています。調査により、縄文時代早期・中期・後期、弥生時代、奈良時代、平安時代の遺構・遺物がみつかったため、複数の時代にわたってこの場所に集落が営まれていたことがわかりました。

本遺跡の特徴は、縄文時代後期後半の環状集落^{かんじょうしゅうらく}がつくられていたことです。本遺跡では、二つの土坑墓群を取り囲むように土坑群・掘立柱建物跡群・住居群が同心円状につくられ、環状の構造になっています。

環状集落は、縄文時代のムラの中でも大きめの集落であり、本遺跡が縄文後期の拠点的な集落であったことが分かります。また、住居跡からは完全な形の遺物や貴重な遺物が数多く出土しており、縄文後期後半の集落構造や土器編年を研究する上で重要な遺跡となっています。

合掌土偶は、平成元年 7 月、長芋作付けが原因の緊急発掘調査で出土しました。縄文時代後期後半 (約 3,500 年前頃) のもので、第 15 号竪穴住居跡の出入り口から向かって奥の、北側の壁際から出土しています。右側面を下にし、正面を住居中央に向け、背面は住居壁面に寄りかかった横たわった状態で出土しました。出土時に欠けていた左足は、2.5 m 離れた西側の床面から見つかりました。土偶のほとんどは、捨て場などからの出土するため、住居の片隅に置かれた状態で出土した、合掌土偶のような例はあまり見当たりません。



合掌土偶は、発掘当時には四つの部位に既に割れていましたが、その部分を天然の接着剤でアスファルトにより修復した痕がみられます。また、部分的ではありますが各所に赤色顔料が見られることから、当初は全身が赤く塗られていたと考えられます。



(村木 淳)



遺跡全景

土偶の移り変わり

土偶は完全な形で出土することが極めて少ないことから、病気や障害の部分を故意に壊し平癒を願ったとする説があります。また、妊娠した姿のものが多くことから、子孫繁栄・豊穡などを願い作られたとする説も有力視されています。しかし、これ以外の解釈も様々なされており、縄文時代における土偶の機能には、地域や年代、さらに遺跡の性格なども含めた研究が必要とされています。

ここでは、これまでの発掘調査により出土した土偶をもとに、^{すがたかたち}姿形の移り変わりについて紹介します。

縄文時代早期中葉（今から約7千年前）の土偶は、小型で逆三角形を呈し、首から胴にかけてY字状の線と点列が施されただけの簡素なものが知られています 写真1。乳房は付けられているようですが、^{はくらく}剥落しています。

次の縄文前期（今から約6千年前）の土偶は、早期と同じ逆三角形を呈しますが、粘土粒を貼り付け「へそ」や乳房をはっきりと表現しています 写真2。土偶の研究者として知られる江坂^{えさか}輝弥氏は、前期までの土偶には、顔の表現がみられないことを指摘しています。

中期（今から約5千年前）になると、十字型を呈し、肩から腕の表現が明確になり、顔面の表現がみられるものも多くなります 写真3。出土



1 早期（狐森遺跡）
※1より



2 前期（一王寺遺跡）
※2より



3 中期（長根遺跡）
慶應義塾大学蔵



4 中期（一王寺遺跡）
県重宝



数が増加し、大型土偶も出現します 写真4。円筒土器に伴って出土する前・中期の土偶は「板状土偶」と呼ばれています。中期末ころからは、^{はしかみまの ぼ}階上町野場 5 遺跡出土品にみられるように、体は板状で、顔の部分だけが立体的に表現した土偶が出土するようになり、後期の土偶への漸移形態を示していると考えられます。

そして後期（4千年前）になると、体部は板状ですが、顔面が立体的に突き出し、足なども明確に表現されるようになります 写真5。さらに後期後葉になると、乳房やお腹が盛り上がり、妊娠している姿の立体的な作りの土偶が現れ、顔の表情にもいろいろな変化がみられるようになります (6)。この時期には立像だけでなく、稀に膝を折り曲げた坐像も稀にみられ、「国宝」に格上げになった「合掌土偶」は、合掌する坐像として唯一の完形品で、優れた造形美をみせています（表紙参照）。

晩期（今から3千年前）になると^{しゃこうき}「遮光器土偶」が流行し、他に数種類のタイプの異なる土偶や岩偶・岩版も作られるなど、祭祀関係の遺物が多様化しています。遮光器土偶の名称は、目の表情がエスキモーが使用する雪メガネに似ていることに因んでおり、亀ヶ岡文化が広がっている東北地方全域から出土しています。中空で製作された大きな土偶は、同文化を代表する遺物です 写真7。晩期後半になると目の表現が小さくなり 写真8、終末には肩が張り^{しとつもん}刺突文が施された別のタイプの土偶へと変化していきます。

東北地方北部では弥生時代前期にも土偶がみられ、最初の弥生文化の受容者が縄文的な祭祀を引き継いでいたことが知られています。

土偶は、縄文時代の祭祀を研究するうえで重要な遺物ですが、縄文時代の衣服や髪形などの復元的な研究にも活かされています。

（工藤 竹久）

※1 『狐森遺跡発掘調査報告書』南郷村教育委員会 1998

※2 山内清男「是川一王寺遺跡発見の土偶」『ドルメン』1934



5 後期前葉
(丹後谷地遺跡)



6 後期後葉（風張1遺跡）



7 晩期前葉（中居遺跡）



8 晩期後葉（中居遺跡）
重要文化財

「合掌土偶」今後の展示予定

平成 21 年 6 月 13 日（土）～ 7 月 26 日（日）

八戸市博物館「土偶展－東北の北と南－」

平成 21 年 9 月 10 日～ 11 月 22 日

大英博物館「土偶展」

平成 21 年 12 月～ 22 年 2 月（予定）

東京国立博物館「土偶展」帰国展

* 海外展・帰国展出展のため、八戸市立博物館では「土偶展」終了後～平成 22 年 3 月末頃までレプリカ展示となります。



追想 “合掌土偶”

風張1遺跡の発掘調査を行ったのは、約20年前（平成元年）のことになります。当初は、調査区全体に20軒以上の竪穴住居跡が切り合った状態で確認され、非常に遺構密度の濃い遺跡であると感じました。

土偶が発見された住居跡は私が担当し、数名の作業員さんと掘り進めていきました。床面近くまで掘り下げたところで、作業員さんの一人が土器か何かが移植ベラに当たったということで掘り下げてみたところ、横向きの状態の土偶でした。周りの土を慎重に取り除くと、そこには蹲踞し合掌する土偶が、約三千年の時を経て我々の目の前にその姿を現したわけです。

他の住居跡を調査していた調査員や作業員さん全員が集まり、土偶を中心に歓喜の渦と化したことを記憶しています。

出土した時は左足を欠いた状態でしたが、もしかすれば住居跡内に残っているのではと思い、作業員さんに注意を促し調査を進めると、2mほど離れた床面で発見されました。まさに、完全体の土偶として蘇ったわけです。

今回、この土偶が「国宝」として指定されたことは、私自身もこの上ない喜びであるとともに、学術的な価値が高く評価されたものと思っています。この土偶を通して、多くの人々に、縄文文化の素晴らしさが伝われば幸いです。



合掌土偶出土状況

藤田 亮一（昭和55年～平成8年まで在職）
（現、㈱シン技術コンサル・文化財調査部）



風張1遺跡発掘調査当時（平成元年） 前列左端が筆者。合掌土偶が出土した年の調査メンバーです。



もっと詳しく知りたい方へ

風張遺跡や合掌土偶などについてもっと詳しく知りたい方は、以下の書籍に、より詳しく取り上げられています。

＊風張遺跡に関する本

- ・発掘調査報告書（八戸市教育委員会発行）
『八戸市内遺跡発掘調査報告書 2 風張 (1) 遺跡Ⅰ』
八戸市埋蔵文化財発掘調査報告書第 40 集 1991
『風張 (1) 遺跡Ⅱ』
八戸市埋蔵文化財発掘調査報告書第 42 集 1991
『風張 (1) 遺跡Ⅲ』『八戸市内遺跡発掘調査報告書 4』
八戸市埋蔵文化財発掘調査報告書第 45 集 1992
『風張 (1) 遺跡Ⅳ』『八戸市内遺跡発掘調査報告書 5』
八戸市埋蔵文化財発掘調査報告書第 48 集 1993
『風張 (1) 遺跡Ⅴ』
八戸市埋蔵文化財発掘調査報告書第 97 集 2003
『風張 (1) 遺跡Ⅵ』
八戸市埋蔵文化財発掘調査報告書第 119 集 2008

・発掘調査報告書以外

- 『風張遺跡の縄文社会』八戸市博物館 1997
- 『青森県史 資料編考古 3 弥生～古代』青森県 2005
- 『新編八戸市史 考古資料編』八戸市史編纂室 2009

＊土偶に関する本

- 『土偶の知識』小野美代子 東京美術 1984
- 『日本の土偶』江坂輝弥 六興出版 1990
- 『日本の美術 345 土偶』原田昌幸 至文堂 1995
- 『東北地方の土偶』東北歴史資料館 1996
- 『歴史発掘 3 縄文の土偶』藤沼邦彦 講談社 1997
- 『日本の美術 515 縄文人の祈りの道具—その形と文様—』岡村道雄 至文堂 2009

※ これらの本は八戸市立図書館・八戸市縄文学習館で閲覧できます。

発掘調査報告書は、八戸市立図書館で貸出しも可能です。



（仮称）是川縄文館建設中

平成 21 年 1 月、（仮称）是川縄文館（埋蔵文化財センター）の建築工事に着手しました。同館は、是川や風張遺跡の出土品の展示や体験交流の他、市内の埋蔵文化財の整理・収蔵・調査研究等を行う施設です。

今年 3 月国宝指定が決定した「合掌土偶」は常設展示として個室に単独展示されます。

平成 23 年度オープン予定です。

（大野 亨）



《建設概要》

建築面積：2,636 m² 延床面積：4,593 m²
構 造：1 階 鉄筋コンクリート造 2 階 鉄骨造
駐 車 場：普通車約 100 台、大型バス 6 台、身障者用 3 台



是川縄文の里整備事業

平成20年度は、是川遺跡PR事業として、「是川公開トーク」及び市内各所でパネル展を開催しました。是川公開トークは、平成23年度開館予定の仮称是川縄文館（八戸市埋蔵文化財センター）に展示・収蔵する予定の出土品の紹介や、是川遺跡に関する講話、参加者との意見交換などを通して、是川遺跡の魅力を感じてもらうことを目的に実施しております。



是川公開トーク第1回（岡村道雄氏）

また、八戸市美術館において是川遺跡PR展示として、「漆の美」展を開催し、是川遺跡出土漆製品や現代漆芸作品（東京藝術大学教授三田村氏・八幡平市安代漆工技術研究センター富士原氏）を紹介しました。会期中は、655名の見学者が訪れました。（大野 亨）



「漆の美」展ポスター



ギャラリートーク（三田村氏・藤原氏）

八戸市美術館

	公開トークテーマ	日 時	場 所	講 師
1	魅力ある 仮称は川縄文館へ	平成20年7月28日(月) 18:00～19:30	八戸市公民館 2階会議室	奥松島縄文村歴史資料館名誉館長 岡村 道雄氏 八戸市文化財課 竹洞 一則
2	漆の美	平成20年10月12日(日) 13:30～15:30	八戸市美術館 2階講義室	東京藝術大学教授 三田村 有純氏 八幡平市安代漆工技術研究センター 富士原 文隆氏
3	是川を掘る	平成20年11月26日(水) 18:00～19:30	八戸市公民館 2階会議室	八戸縄文保存協会会長 栗村 知弘氏 八戸市縄文学習館 宇部 則保
4	縄文時代の技	平成21年1月20日(火) 18:00～19:30	八戸市公民館 2階会議室	首都大学東京教授 山田 昌久氏 八戸市文化財課 大野 亨
	是川遺跡PR展示 「漆の美」	平成20年10月10日(金) ～10月19日(日)	八戸市美術館 3階展示室	是川遺跡出土品(漆製品)、是川遺跡出土木製遺物復元製作品、現代の漆芸作品を展示。



平成 20 年度 八戸市内発掘調査一覧

	遺跡名	調査	調査原因	調査期間	調査面積 (㎡)	主な時代
市 内 遺 跡 発 掘 調 査 事 業	一王寺(1)遺跡 第12地点	確認調査	範囲・内容確認	H20.4.28～7.8	800	縄文・古代
	田面木遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	H20.4.14	6	古代
	冷水遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H20.4.15	5	縄文
	天狗沢遺跡	試掘調査	植林	H20.4.25	2	縄文・古代
	田面木遺跡③	試掘調査	個人住宅建築	H20.5.14～6.2	12	古代
	酒美平遺跡	試掘調査	道路舗装	H20.6.10	18	縄文・古代
	櫛引遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H20.6.13	2	縄文～古代
	法霊林遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H20.7.7	17	古代
	館平遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	H20.7.23	33	縄文～古代
	石橋遺跡 第7地点	試掘調査	道路築造・造成	H20.7.25～7.29	163	縄文・古代
	一王寺(1)遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H20.8.26	19	縄文・古代
	湯ノ沢遺跡 第2地点	試掘調査	最終処分場建設	H20.9.4～9.30	734	縄文
	新井田古館遺跡 第19地点	試掘調査	下水道整備	H20.9.9～10.27	300	縄文・古代・中世
	山内遺跡 第1地点	試掘調査	個人住宅建築	H20.10.3	40	縄文・古代
	新井田古館遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	H20.10.20	7	縄文・古代・中世
	松ヶ崎遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H20.11.21	4	縄文・古代
	田面木遺跡②	試掘調査	個人住宅建築	H20.12.1	12	古代
	細越遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H20.12.17	6	古代
	新井田古館遺跡②	試掘調査	擁壁工事	H20.12.22	40	縄文・古代・中世
	新田遺跡	試掘調査	携帯電話基地局設置	H21.2.27	28	縄文・古代
	館平遺跡 第22地点	試掘調査	携帯電話基地局設置	H21.3.24	100	縄文・古代
	重地遺跡 第2地点	試掘調査	集合住宅建築	H21.3.25～3.27	237	縄文
	林ノ前遺跡	本調査	自然崩落防止	H20.4.14～10.30	310	縄文・古代
	根城跡下町 第6地点	本調査	個人住宅建築	H20.4.17～4.30	70	縄文・中世・近世
	田面木遺跡 第33地点	本調査	長芋作付	H20.4.23～6.27	1,200	古代
	八戸城跡 第20地点	本調査	個人住宅建築	H20.5.30～7.18	63	弥生・古代・近世
	市子林遺跡 第17地点	本調査	個人住宅建築	H20.8.25～8.29	38	縄文・古代
受 託 事 業	八戸城跡 第19地点	本調査	中央児童会館建築	H20.6.2～9.5	622	弥生・古代・近世
	田向遺跡	本調査	土地区画整理	H20.7.16～9.30	2,566	縄文～近世
	田向冷水遺跡	本調査	土地区画整理	H20.7.2～9.30	2,210	旧石器～近世
	新井田古館遺跡 第20地点	本調査	道路・擁壁工事	H20.9.18	40	縄文・古代・中世

《調査事務局》(平成 20 年度)

八戸市教育委員会

教 育 長 松山 隆豊

教 育 部 長 林 隆之介

教育部次長兼

文化財課長 工藤 竹久

《文化財グループ》

G L 藤田 俊雄

主 幹 村 木 淳

主査兼学芸員 小保内 裕之

主査兼学芸員 渡 則 子

主事兼学芸員 小久保 拓也

主事兼学芸員 杉山 陽亮

主事兼学芸員 船場 昌子

《縄文の里整備推進グループ》

副参事兼 GL 竹洞 一則

主 幹 大 野 亨

主 査 久 保 伝

主 事 佐々木 伸也

主 事 磯島 理美



《平成 20 年度刊行》

八戸市埋蔵文化財調査報告書

第 119 集 風張遺跡VI

第 120 集 八戸市内遺跡 26

第 121 集 八戸城跡IV

第 122 集 新井田古館遺跡

掘りday はちのへ 第 12 号

発行年月日 2009 年 6 月 20 日

編集・発行 八戸市教育委員会文化財課

〒 031 - 8686

青森県八戸市内丸一丁目 1 番 1 号

TEL 0178 (43) 9465 (文化財課直通)

E - m a i l bunka@city.hachinohe.aomori.jp

http://www.city.hachinohe.aomori.jp/

index.cfm/12,0,43,64.html

(八戸市ホームページ)

印刷 大東印刷株式会社

印刷部数：1,000 部 印刷経費：一部あたり 94.5 円